

令和6年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名: 始良・伊佐地域振興局農政普及課

課題名④	地域水田活用のしくみづくり(始良)							
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの意見・提言	意見・提言等に対する改善策や普及指導計画への反映等		
		適当	概ね適當	要改善				
課題の設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	6						
対象の選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	6						
活動体制・活動方法	③関係機関とうまく連携して取り組まれていたか	6			⑥市と足並みをそろえて明確なビジョンを持つことは大切だと思った。	ご意見を踏まえ、今後の活動にも反映させていきたい。		
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であったか	5	1					
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	4	2					
活動の成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	3	3					
活動の波及性と改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	4	2		①赤カビ対策をいろいろな角度から考えて欲しい。 ⑥水田利用は大きな課題と思うので波及性は高いと思った。	水田フル活用において麦類の栽培は不可欠である。ご意見を踏まえ、今後も農家及び関係機関団体と連携しながら地域課題の解決と普及性を考慮し活動展開を図っていきたい。		
	⑧結果が十分でないものは今後の対策を考えられているか	3	3					
全体的な意見・提言等			③大変すばらしい活動だったと思います。より多くの地域での営農活動をあるいは否応なく求められる現在、慣例となつた作業を見直す必要があると思っています。紺藍の取組を他の地域・作目に波及させていただけるとありがたいです。 ④水田活用を周年で活用できる作物を検討していただきたい。 ⑤水田活用をとてもうまくされていると感じた。畑と同様に水田でもいろいろな形で作物なども出来ていく時代になると田んぼを作らなくなった農家がまた違う形で水田を生き返らせるのかと思った。これから水田の活用が楽しみです。 ⑥各地域で農業関係機関が同じ方向をみて、目標を見据えることは大切だと思った。米の裏作や水田利用など始良伊佐地域の課題解決に向か今後も考えていく必要があると感じた。				ご意見を踏まえ、今後も農家及び関係機関団体と連携しながら地域課題の解決と普及性を考慮し活動展開を図っていきたい。	

令和6年度外部評価会 集計表(関係者用)

課題名④ 地域水田活用のしくみづくり(始良)		評価結果(人)			外部委員からの意見・提言	意見・提言等に対する改善策や普及指導計画への反映等
項目	評価の視点	適當	概ね適當	要改善		
課題の設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	4	3		⑦交付金事業における①技術支援、②需要に応じた水稻品種の選定、③裏作の推進が課題となっているが、いずれも手法であるとも考えるので、説明が欲しい内容。	普及活動は、農家や地域及び関係機関団体との連携の上、課題設定等行い活動展開を図ることから、ご意見を踏まえ、今後も検討や活動を行っていきたい。
対象の選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であったか	3	3	1	⑦活動対象が明確化されておらず、始良市の事例へと展開するので、説明がないことから対象がわからない。	ご意見を踏まえ、対象を明確に表現した上で今後も検討や活動を行っていきたい。
活動体制・活動方法	③関係機関と連携して活動しているか	4	3		⑦経営モデルづくりができた過程と手法の説明と団体連携の説明もなく、どこと何が連携した活動なのか理解できない。イネ稻こうじ病の防除に係る説明が役割分担で説明され、技術実証の内容が新規技術か、既に確立された技術かが分からぬ。効果有と結論付けているので効果があつたものと思われる。	水田課題において農家(地域)及び関係機関団体等との連携は不可欠である。ご意見を踏まえ、今後も農家及び関係機関団体と連携しながら地域課題の解決と普及性を考慮し活動展開を図っていきたい。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であったか	2	5			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	4	3			
活動の成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	3	4		⑦計画等に基づく技術指導なのであれば、効果を上げたと判断できるが、手法が課題で、成果を上げているのが改善点。そもそも、裏作等を行い売上が上昇する成果といったものは当然の結果で、成果対象が甘い。	ご意見を踏まえ、今後の活動にも反映させていきたい。
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	1	5	1		
活動の波及性と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	4	3		⑦防除手法等は波及性があると思われるが、本取組が技術として新規手法であったかによる。 結果良く、対策はないはずだが、説明なく今後の別途課題、手法が示されるのは、課題自体の捉え方に問題がある。	ご意見を踏まえ、今後の活動にも反映させていきたい。
	⑨結果が十分でないものは今後の対策を考えられているか	2	5			
全体的な意見・提言等		①飼料米等は一般米の価格次第で面積確保が厳しくなることも予想される。交付金等を活用し、安定した収益が確保される対策が必要。麦等の安定生産に向けて関係機関一体となって取り組んでいただきたい。 ③新品種の提案等、今後も水田活用の取組を推進していただきたい。 ④水田農業は米価と水田活用交付金との兼ね合いで、圃場によっては作付けする品目が一定しない状況があると思われます。そういう中で、地域で一体となって取り組むことは、生産性・収益性の向上に繋がると思います。 ⑤始良地域の耕作面積に占める水田が多いことから農家経営を安定させるためには水田フル活用が非常に重要。その地域モデルが普及しつつあることは、振興局、関係機関の支援の成果。今後も引き続きスマート農業の情報提供や活用事例の紹介など生産拡大や普及啓発の支援をお願いしたい。 ⑥水田フル活用は稲作農家にとって重要である。今回の成果は他の地域でも実証できればと感じた。 ⑦県はどのような評価で、外部者の視点を求めているといった活動であると考えるが、内部で評価されたものを示したうえで外部評価者への評価依頼をされてはいかがか。			ご意見を踏まえ、今後も農家及び関係機関団体と連携しながら地域課題の解決と普及性を考慮し活動展開を図っていきたい。	

※ 「外部委員から意見・提言」に対して「改善策や普及指導計画への反映等」が連動するように記載してください。



⑨

地域水田活用のしくみづくり(姶良市での取組事例)

姶良・伊佐地域振興局農政普及課



水田営農推進の目標設定(R1~)

- ① 地域水田農業ビジョン及びモデルの策定
- ② 需要に応じた水稻(主食用、加工用米、飼料用米、WCS用稻等)の生産振興
- ③ 水田をフル活用する作物振興(麦の生産振興等)
- ④ 水田における野菜等高収益作物や飼料作物栽培推進
- ⑤ スマート農業・省力化技術を活用した生産拡大

管内の水田営農の状況及び課題

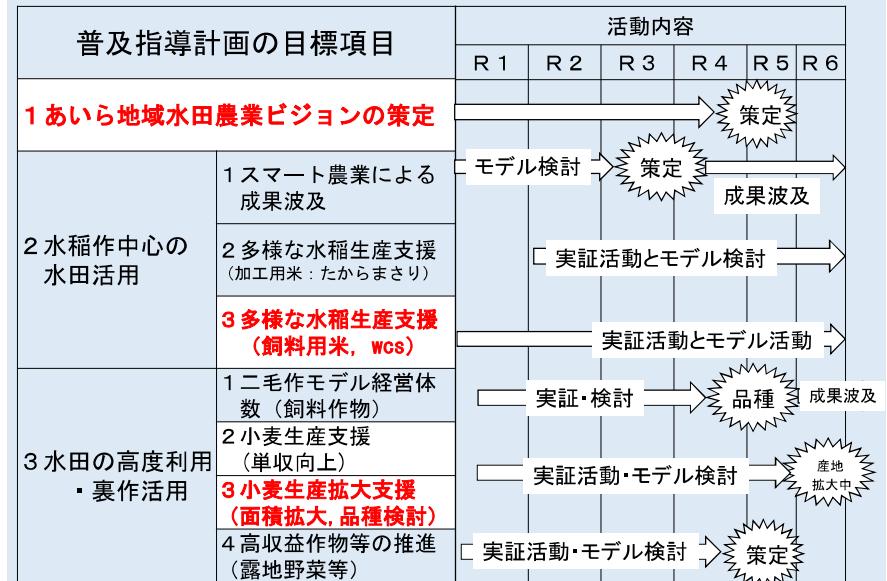
<現状>

- ① 平坦な地域や干拓地帯、内陸部、中山間地などに水田が広がっている。
- ② 姐良地域は、耕地面積の約6割は水田である。
(県平均は、耕地面積の約3割が水田)
- ③ 小規模水稻農家数の、高齢化と減少等に伴い、1戸あたりの面積は増えている。

<課題>

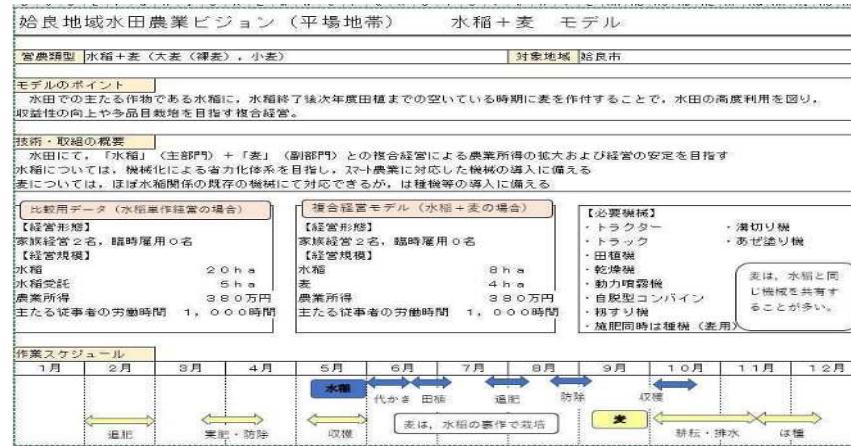
- ① 水田収益力強化ビジョンを実現する技術面からの指標が必要
- ② 需要に応じた水稻の生産振興が必要
- ③ 水田裏作利用の推進が必要

水田営農推進の目標と普及計画(年次別取組)



1 あいら地域水田農業ビジョンの策定

令和5年策定



水稻振興の他、麦や飼料用米の取組を支援

水田営農推進の目標と普及計画(年次別取組)

普及指導計画の目標項目

1 あいら地域水田農業ビジョンの策定

1 スマート農業による成果波及

2 多様な水稻生産支援
(加工用米:たからまさり)

3 多様な水稻生産支援
(飼料用米、WCS)

1 二毛作モデル経営体数（飼料作物）

2 小麦生産支援
(単収向上)

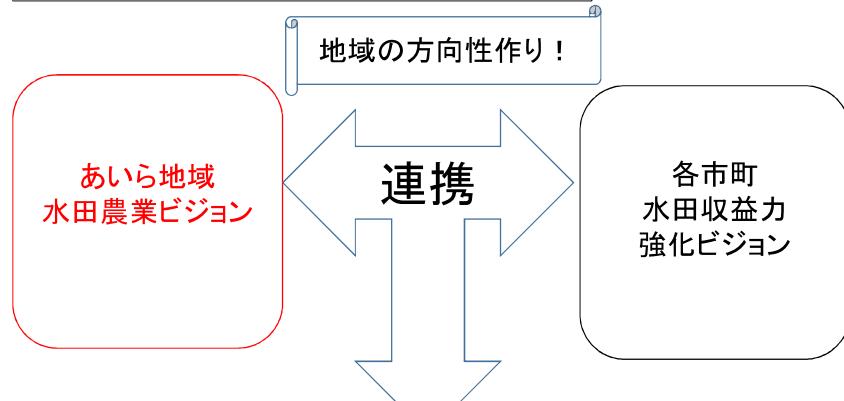
3 小麦生産拡大支援
(面積拡大、品種検討)

4 高収益作物等の推進
(露地野菜等)

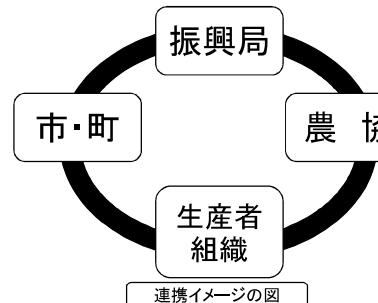
活動内容



1. あいら地域の水田農業ビジョン策定



2 水稲作中心の水田営農(飼料用米)



水稻(主食用や非主食用)
の
生産振興や単収向上
を図る取り組み

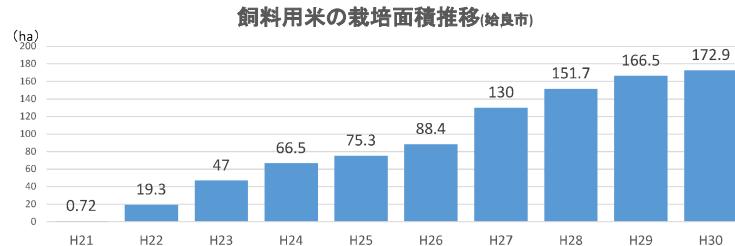
例: 姶良市では「飼料用米」の取組を推進



2-3 多様な水稻生産支援(飼料用米)

(1) 飼料用米の取組経緯

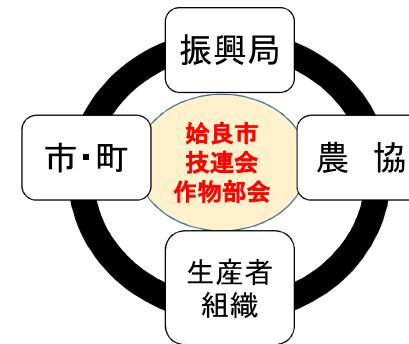
- 当地域は飼料用米の取り組みが期待。
- 姶良市は、水田の活用と所得向上のため、平成21年から栽培が開始。(3戸、72a)
- 施策活用もあり、栽培面積は10年で170haまで拡大。



2-2-3 多様な水稻生産支援(飼料用米)

(2) 役割分担と取り組み

各役割を明確にして、3年程度で解決することを目指した



○農政普及課

- ・現地技術の開発と技術実証

○姶良市

- ・全体調整と施策活用摸索・広報(产地交付金活用)

○農協

- ・販売実務と検査や出荷調整

○生産者組織

- ・実証担当及び成果の共有

2-2-3 多様な水稻生産支援(飼料用米)

(1) 飼料用米の取組経緯

- 平成30年頃からイネ稻こうじ病が急激に発生し、返品とクレームが問題となり、生産の不安が急速に広がった。

↓

「イネ稻こうじ病」の解決が緊急課題となった

稻こうじ病とは

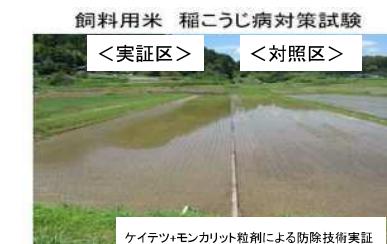
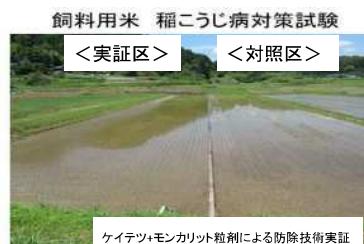


イネ稻こうじ病は、規格外米の発生やクレーム・返品を生じさせるため問題。また、収穫時に発病穂が落ち、次作の発生源になるため数年かけて大発生します。

農研機構 マニュアルより引用 茨城県HPより引用

2-2-3 多様な水稻生産支援(飼料用米)

(3) 取組状況



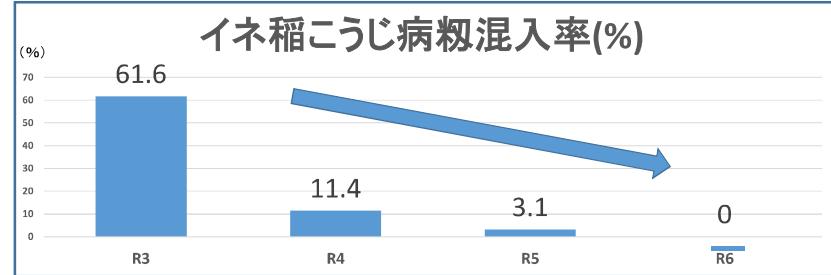
2-2-3 多様な水稻生産支援(飼料用米)

(4) 結果

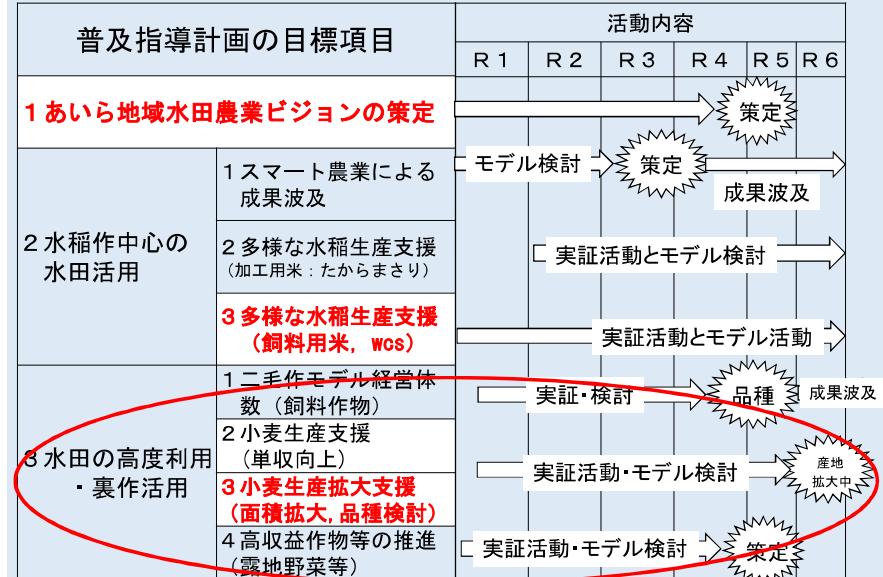
農家への周知・技術の徹底により発生0%にまで激減

イネ稻こうじ病低減対策技術

ケイテツ + モンガリット粒剤
100kg/10a 田植後5日以内散布 3年程度の継続施用

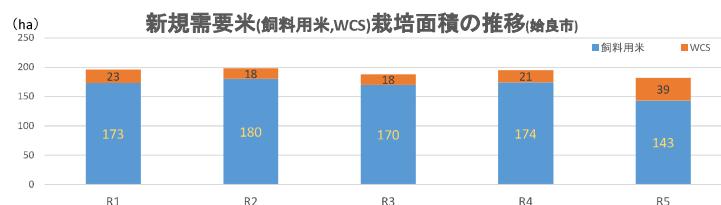
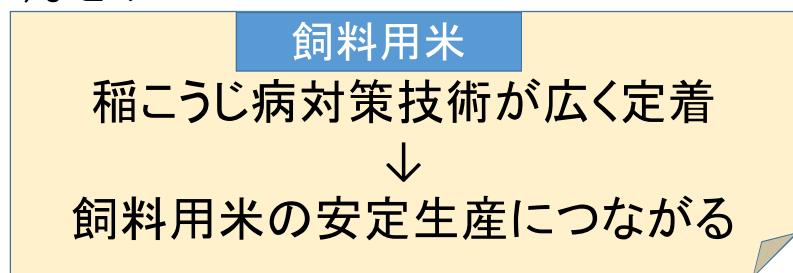


水田営農推進の目標と普及計画(年次別取組)



2-2-3 多様な水稻生産支援(飼料用米)

(5)まとめ



3-2-3 小麦の生産支援

(1) 小麦の取組経緯

姶良市は、過去県下有数の小麦生産で、「アイラコムギ」は県の奨励品種だった。



「アイラコムギ」は、収穫が梅雨期になり、栽培に適さないというイメージがあった。

実需者からの要望もあり、品種や栽培技術を見直すことで、
「5月までに収穫終了する小麦栽培が可能では?」と考えた。

3-2-3 小麦の生産支援

(2) 役割分担と取組内容

小麦生産の推進で水田のフル活用と産地化を目指した

振興局、市、JAが市技連会や市再生協で協議した結果

【振興局】【水稻農家】

役割分担

- 排水対策技術 及び 品種に応じた栽培技術確立 の 実証と周知

【姶良市】

- 交付金を活用した担い手農家への経営支援

【JAあいら】

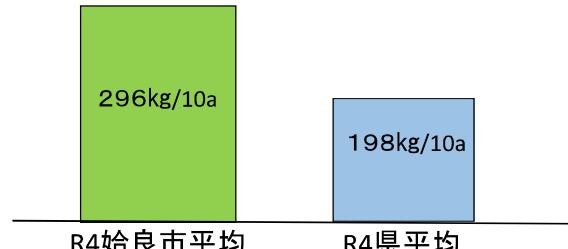
- 地元産としての販路開拓(鹿児島県産小麦から姶良市産小麦へ)

3-2-3 小麦の生産支援

(4) 結果

水稻後でも排水対策や品種に応じた適期管理を行することで、小麦が作れることを実証

小麦の単収(令和4年産実績)



実証結果では、県平均の約1.5倍

3-2-3 小麦の生産支援

(3) 取組状況



単収や生産技術向上のために関係機関団体と実証ほ場で現地検討及び室内検討を実施



排水対策や実需との連携も含めて検討を実施

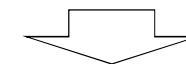
3-2-3. 小麦の生産支援

(5) 対象及び地域の変化



あい裸麦生産組合

単収向上実証や栽培技術の確立により、小麦が有望な作物であることが再認識。



姶良市

小麦が有望であることがわかり、産地づくり交付金等を活用し、水稻農家へ新たに推進。

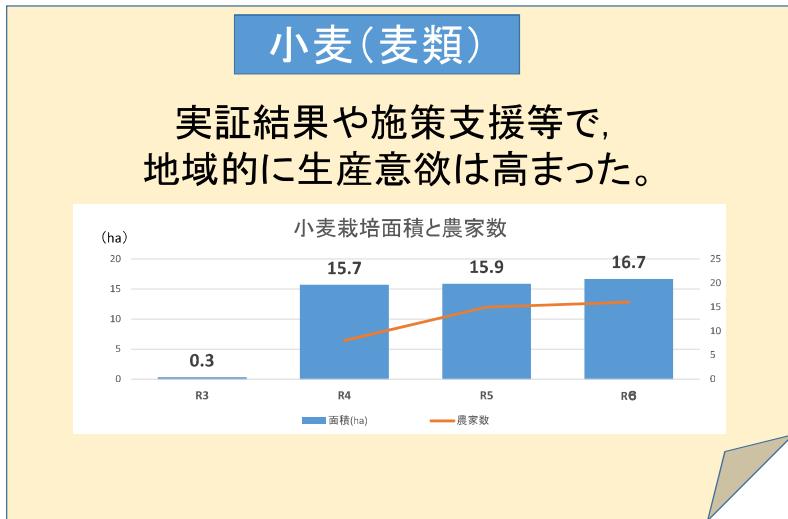


水稻担い手農家

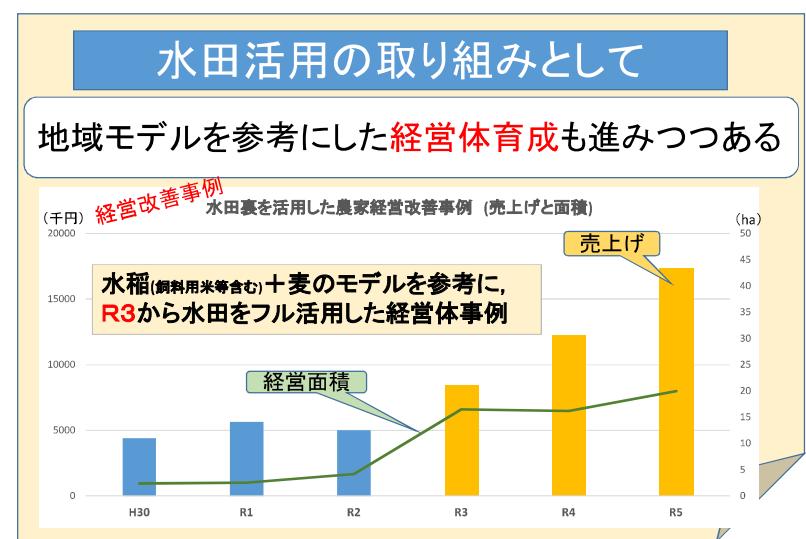
水稻農家の小麦栽培意欲が高まった。

3-2-3. 小麦の生産支援

(6)まとめ

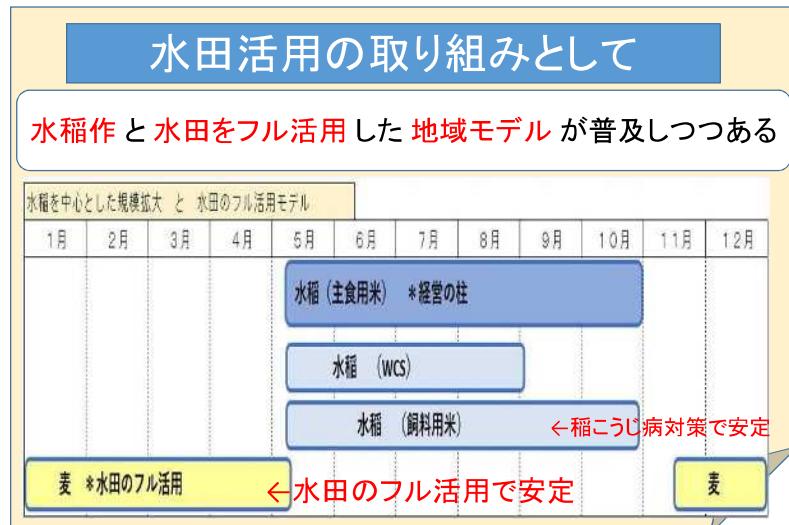


活動のまとめ



活動のまとめ

今後の課題



- ①水稻中心のモデル農家育成
- ②地域計画と連動した水田の高度利用推進
- ③生産拡大に向けたスマート農業・省力化技術の活用